

インド商工省及びインド産業回廊開発公社 NICDC による 統合インフラ開発計画及び国家ロジスティクス政策セミナーのご案内

インドは JBIC による海外直接投資アンケートで、長期的な有望国として 2010 年から 13 年間連続で 1 位であり、中期的有望国としても 1 位に返り咲く等、日本企業からの注目が日増しに高まりつつあります。インド政府は脆弱と言われてきたインフラ開発に対して国家インフラ開発計画を発表するなど巨額の予算を投じており、デリー・ムンバイ間においては貨物専用高速鉄道や高速道路等のインフラ建設も急ピッチで進んでいます。

並行して、インド政府及び政府機関のほか、JBIC も 26% の出資を行い設立されたインド産業回廊開発公社 (NICDC) が司令塔となり、インド中央政府が自ら資金を投じ、各州政府が一体になって開発する質の高い工業団地開発が進んでおります。その一つであり、インド政府が現在最も注力するグジャラート州ドレラ工業団地では、インド初となる国産半導体製造拠点の設立も予定されており、4 月 4 日のテレビ東京 WBS でも大きく取り上げられました。

このたび、インド商工省のロジスティクス担当特別次官であり NICDC 総裁であるスミタ・ダウラ氏 (予定) 並びにグジャラート州政府次官及びドレラ工業団地運営主体総裁であるハリート・シュクラ氏が、その他 NICDC 工業団地運営主体 (中央政府 50%、州政府 50% 出資の SPV) の幹部らとともに来日し、直接インドのインフラ開発政策や開発計画、ドレラ工業団地をはじめとする各 NICDC 工業団地の魅力について紹介するセミナーを開催することとなりました。

本件は日本企業向けビジネス環境の改善を積極的に推進するナレンドラ・モディ首相やピユシュ・ゴヤル商工大臣の命を受けたミッションであり、インド政府関係者とのネットワークの機会ともして頂くべく、懇親会も含めた原則対面式 (ZOOM でのウェブ参加も可能といたします) でのセミナー開催を予定しております。

インドビジネスにご興味のある日本企業の皆様のご参加を、お待ちしております。

記

1. 日 時 : 2023 年 4 月 25 日 (火) 13 時~16 時 (日本時間)

※13 時~15 時はセミナー (ウェブ参加も可)、15 時からは懇親会を予定

(アジェンダ (案))

13:00~13:05 JOI 理事長による開会挨拶

13:05~13:15 NICDC ダウラ総裁によるキーノートスピーチ
(インド統合インフラ開発計画及び国家ロジスティクスポリシー)

13:15~13:30 JBIC ニューデリー事務所首席駐在員 (NICDC 社外取締役) による
インドビジネス環境及び NICDC についての紹介

13:30~14:00 NICDC チャウドリ副総裁による NICDC 取組みの紹介

14:00~14:30 グジャラート州ドレラ工業団地をはじめとする NICDC 工業団地の紹介

14:30~14:45 質疑応答

14:45~14:50 JBIC 役員による閉会挨拶

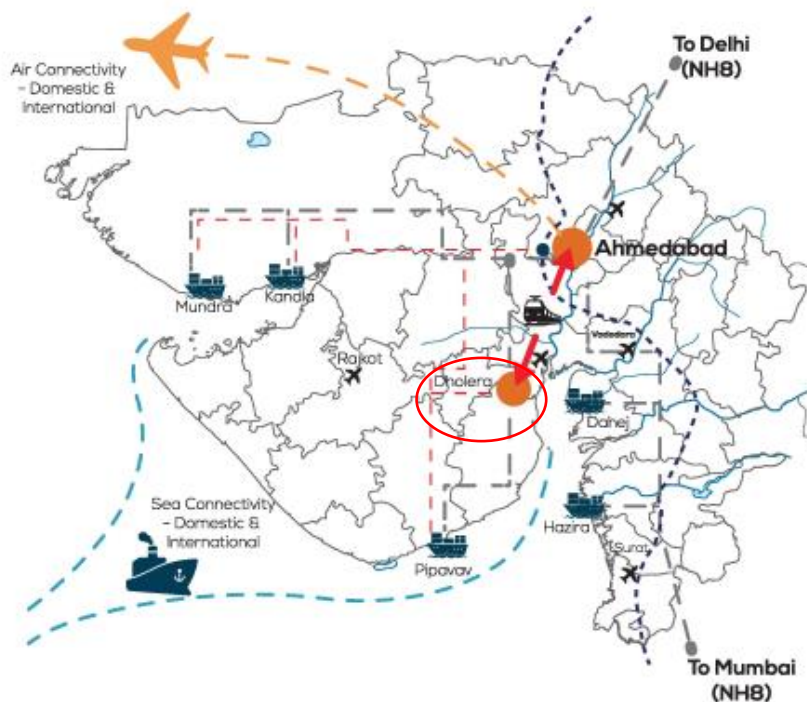
15:00~16:00 懇親会 (軽食をご提供いたします)

2. 会 場：如水会館（東京都千代田区一ツ橋 2-1-1）
3. 主 催：株式会社国際協力銀行（JBIC）
共 催：インド産業回廊開発公社（NICDC）
一般財団法人海外投融資情報財団（JOI）
4. 参加費：無料（現地までの交通費、宿泊費等については各自でお支払いください。）
5. お申込： 下記リンクよりお申込ください。
お申込先：https://www.joi.or.jp/seminar/20230425/?tmp_mode=guest
申込期限：4月19日(水)18:00（日本時間）

以 上

ドレラ工業団地

概要	モディ首相の出身地グジャラート州で、インド政府が注力する工業団地プロジェクト。同工業団地にてインド財閥の Vedanta グループと台湾のフォックス・テクノロジー・グループが半導体の製造を開始すると発表済みであり、半導体等新規ビジネスの広がりが期待される工業団地。
立地	アーメダバードより約 2 時間半。2023 年の開通を目指し高速道路の開発を実施中。高速道路の開通によりアーメダバードからの移動時間が 1 時間に短縮される予定。ドレラ国際空港 (2025 年度運営開始予定) から約 15km
総面積	約 920 km ² (91,970 ha)
インフラ	団地内に薬局、ガソリンスタンド、EV 充電ステーション、タクシー・リキシャスタンド、駐輪場、公衆トイレ、パブリックアートスペース、映画館、アングンワディ (インド版保育所)、カレッジ等建設予定
Web サイト	https://dholera.gujarat.gov.in/



AURIC シェンドラ工業団地・ビドキン工業団地

概要 マハラシュトラ州政府とインド政府が共同で設立した「Aurangabad Industrial Township Limited (AITL)※1」が開発を手掛ける。シェンドラ※2とビドキンの2工業団地の総称を「Aurangabad Industrial City」とし、その頭文字をとって通称 AURIC と呼ばれる。

※1 マハラシュトラ州政府51%、インド政府49%の出資により設立。

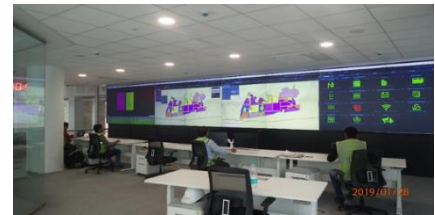
※2 隣接するマハラシュトラ産業開発公社 (MIDC) シェンドラ工業団地とは別です。

・ AURIC シェンドラ工業団地

立地 マハラシュトラ州・アウランガーバード空港から車で約30分
ムンバイまで約390 km、ナバシェバ港まで約375km

総面積 約9 km²

インフラ 団地内に変電所、浄水施設、中央排水施設、下水施設、光ファイバー、各施設は中央監視センターにてSCADAで管制、AURIC ホール（会議室、食堂、銀行ATM、ジムなど）が利用可



中央監視センター内部

Web サイト <https://www.auric.city/>

・ AURIC ビドキン工業団地

立地 マハラシュトラ州・アウランガーバード空港から車で約1時間
ムンバイまで約365 km、ナバシェバ港まで約355km

総面積 約32 km²

インフラ及び Web サイトはシェンドラ工業団地同様（AURIC ホールは無し）

DMICDC の関わる 4 工業団地



アウランガーバード近郊地区

